

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

私のクラスでの春学期の授業内容は、クラスを4グループに分け、グループそれぞれが新聞の記事から、自分たちが気になったことについて文献などを通して詳しく調べ、そのことについてのメンバー1人1人の思いや考えについて発表してもらいました。またその発表の後に、先生がその発表においての問題提起をし、クラス全体で1人1人の思いを聞き、ディスカッションをしてきました。その中で、私はこの授業のチューターとして主に、メンバーの発言のまとめ役になれるように努力してきました。

気づいたこととして、まずこの小クラスの授業において1回生のメンバーが大学生活に少しずつ慣れてきて笑顔を良く見られるようになったことです。そしてメンバーそれぞれがディスカッションの内容についてしっかりと向き合っていることを、回数を重ねるにつれてより感じるようになりました。積極的に反対意見を言えることや、自分の思いについて発表をできるということがこのクラスの魅力だと思います。また最初から社会福祉に興味がないと言っていたメンバーでも、発表の内容は児童虐待や障がい者雇用、ひとり親家庭の貧困など、日本が抱える福祉の問題について真剣に考えていることを知り、少しでも関心を持ってきているのかな、と思いました。

感想として、まず私は春学期中では1回生のメンバーとあまり積極的に関わることが出来なかったのがすごく後悔しています。授業の形態上、あまり1回生と話す時間がなく、関わりを持つことが難しかったのもあるのですが、秋学期では少しでも積極的に関わるように心がけて生きたいと思っています。また私自身がこの授業を通して学ぶことの多さを感じました。社会福祉を学び始めて4年目になるのですが、私があまり真面目に学んできていないのもあるのですが、1回生とディスカッションをすることで、新たな考えや思いであったり、私のまったく知らないことについての発表を聞くことで、私にとっての新たな学びになっていると思います。

秋学期に向けて、メンバー同士でより活発なディスカッションができるように、私自身も可能な力を振り絞ってコーディネートすることに努力していきたいと思います。

<今後のチューターまたは先生への提案>

春学期では主にグループ発表を通して、メンバー同士の関わりを持つことができ、少し壁がなくなったように思います。なので、秋学期でも別のメンバーでのグループ発表を通してメンバー内での交流を深め、より深くディスカッションをできるようにしていきたいと思っています。

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

1. 仕事内容

(1) 小クラスでの講義補助

講義：ディベートが円滑にすすむよう補助を行った。具体的には①ディベートの概要説明②資料作成・論理組み立てにおけるアドバイス③ディベートの司会進行④ディベートを通してのフィードバックを行った。

(2) 全体クラス（シンポジウム）でのスピーチ

4回生によるシンポジウム「私の学生生活を振り返って～1回生に伝えたいこと」に参加した。A4 1枚のレジュメを作成し、約8分間スピーチをした。

2. チューター業務を通して気づいたこと・感想

3者に対して気づくことがあった。

(1) 自分に対して

小クラスでの講義がディベートということから「論理的に考え、話すこと」において自分の未熟さを感じた。就職活動において十分に注意し、鍛えたつもりだったが自分の力不足に気付かされた。また1回生との距離を満足に縮められなかったように感じる。コミュニケーション能力不足にも気付かされた。

(2) 1回生に対して

発表が得意、情報収集が得意、チームを盛り上げることが得意など個性豊かなメンバーだったが仲間割れするようなことはなかった。これからもそれぞれの個性を大事にして欲しく、またそれを認める環境であって欲しいと思った。全員真剣に講義に取り組んでくれたのでチューターとして嬉しかった。

(3) 先生に対して

私は大学という教育現場で初めて教える側に立った。この体験を通して先生が常日頃行っているプレゼンや生徒とのコミュニケーションの取り方の難しさに初めて気づいた。教えること、教える環境を創り出すこと、人を動かすことにおいてとても勉強になった。

<今後のチューターまたは先生への提案>

「ディベートの実施」

小クラスでの講義：ディベートは成功したと胸を張って言える。なぜなら FYS におけるディベート実施の利点①1回生という早い時期に論理的思考をする癖が身に付く②話し合いなどを通してメンバーとコミュニケーションがとれる③講義自体が全員参加・双方向的に行える（プレゼンのような一方的なものにならない）などに気づき、その意義の大きさを感じたからだ。この点から私は小クラスでのディベート実施を提案する。

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

一番の感想は、今年はフレッシュマンキャンプに参加できなかったのが、1年生と関わることができてとてもうれしかったです。特に今年は男子が多いと聞いていたので、どんな雰囲気なのか気になるところが大きかったです。優しく素直な人が多く、男女ともに高めあっていく雰囲気があることがすばらしいと思います。

春学期の主な目的は、1年生にとって大学生活の基礎となる知識を身につけること。それから小クラス内でコミュニケーションを深めることで周りの人の意見を聞き、その多様性を知ることだったと思います。私たちチューターはその手助けをすることで、さらに内容を深めることができました。具体的には、全体を3つのグループに分け、グループごとに新聞から興味のある記事を紹介し、それについて自分の意見を発表しました。さらにディスカッションテーマを設定し、全員で発表しました。裁判員制度や、エコバッグ、虐待問題などまずは福祉に限定せずに「調べる」とはいったいどういうことなのかという事を学ぶことができました。新聞記事の調べ方やレポートの書き方などは、特にこれからの大学生活で役に立つものだと思います。

1年生の発表を見ていると、ある意味では4年生よりも素直で、まっすぐな意見が多く、私自身も考えさせられることがたくさんありました。そういった点で、今回チューターという仕事に携わることができたことに大変感謝しています。春学期はまだみんな緊張している部分もあると思うので、秋学期にはさらに意見を交換できるようになることを期待しています。

<今後のチューターまたは先生への提案>

やはり4年生ということもあって予想以上に1年生が距離を感じているようでしたので、授業以外でもチューターなど上回生と関わる機会があったらいいなと思いました。他のチューターの方も同じ意見のようです。慣れの部分も大きいと思いますので、秋学期はさらに仲良くなれるのではないかと楽しみにしています。それからチューターはいつも同じクラスを受け持っていますが、順次ほかのクラスに交代していくというのもおもしろいかなと思いました。最初と最後の授業では全員の前で話す機会があったのですが、他は全く関わることができなかった。1年生にとってもその中で気が合いそうな4年生と仲良くなれば、さらに可能性が広がるのではないかと思います。

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

春学期は私自身も1回生の皆さんも不安と期待、緊張感でいっぱいだったように思っている。大学という場にまだまだ慣れていない1回生の皆さんとの授業で私もきちんとお役に立っていたのかと不安に思う。

仕事内容としては、担当の先生の指示があればそのように動き、なければ1回生の皆さんのお話を聞いたり、皆さんが皆さん同士でお話をするお手伝いをしたりしていた。また授業の中で、4回生として1回生の皆さんにお話できることを発表させていただいた。学業に関するだけでなく、プライベートなことや時間の使い方などについても同じ学生でなお且つ4回生だからこそ分かること、伝えておきたいこととお話しさせていただけたことは本当に良かったと思っている。1回生の皆さんのためになれているかどうかは分からないが、私を含め4回生自身は自分たちの学生生活を振り返る良い機会になったと思うし、これからの残り少ない学生生活をどのように有意義に過ごしていくかということを考える良い機会にもなった。

春学期チューターをさせていただいて気付いたことは、本当に各学年によってそれぞれのカラーがあって学年ごとに雰囲気は異なっているのだなということだ。私たちが1回生の時の雰囲気とは全く違う雰囲気があり、これはどの学年においても言えることだと感じた。また、皆さんが皆さん福祉に興味を持って福祉学科に入学されたわけではなく、まだまだ福祉についての専門知識を持っておられる方は少ないと感じたが、私たちも1回生の頃はそうだったな、と思いだした。

秋学期も少しでも1回生の皆さんが良い環境で学べるように、そして私自身も何か得られるようにチューターという仕事を頑張っていきたいと思っている。大学に行き始めた最初のうちは、本当に自分自身が学んでいるのかが分からず不安になることも多いと思う。だからこそ、同じ学生としてまた、少しは多く学んできた先輩として、1回生の皆さんのお役に立てたらと思っている。

<今後のチューターまたは先生への提案>

春学期は私自身何をしたら良いのか分かっていなかった部分もあり、また、担当の先生も何をしてもらったら良いのか分からないとおっしゃっていました。もう少しやるべきことが分かる、ないし言ってもらえればなと思った部分がありました。

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

《春学期の講義内容》

- ◎5/12 チューター紹介
- ◎5/19 図書館ツアー
- ◎5/26 DOORS の使い方(復習)、自己紹介
- ◎6/2、9 レポート・発表の仕方(特に、引用や参考文献について)
- ◎6/16、23 個人発表(福祉に関連する記事の中から興味・関心のあるものを選んで発表)
- ◎6/30、7/7 グループ発表(4人ずつの4グループに別れて、福祉に関するテーマで発表)
- ◎7/14 チューターによるシンポジウム
「私の学生生活を振り返って1回生に伝えたいこと」
- ◎7/21 レポートの書き方

チューターの仕事としては、基本的に各クラスの運営の補助をしていました。

1回生の中には、既に関心のある分野が固まっている人もいましたが、毎回、発表のテーマが高齢者問題や虐待等から制度に関することまで幅広く、色々な人の考えや色々な分野の話聞くことが出来る貴重な場であったと思います。それにより、1回生の視野が広がったと思いますし、私自身も大変勉強になりました。斬新な切り口や意見が聞け、これこそが小クラスの良さだと改めて実感しました。

また、レポートの書き方の説明がすごく熱心で、私たちのときもこれを教えてほしかったです。卒論のときも役立つし、1回生のときから論理的に書くことを意識し、参考文献を上手に活用できるとすごく力がつくと思いました。

チューターによるシンポジウムは、私たちの時には無かったものだったので、すごく新鮮でした。初めは私たちの学生生活の話など、聞いてくれる人がいるのかなと不安でしたが、思ったよりもみんな話を聞いてくれていて、学生が学生に対して話をするのも先生とは違った視点で良い機会になるなと思いました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

小クラスごとの授業が多かったので、他のクラスの様子等を情報交換する機会があればよかったのではないかと思います。

1回生は、まだ自分の意見を言うことに慣れていない人もいましたが、当てると自分の考えを言えている子が多かったので、秋学期は1つのテーマについて小クラスの皆でディスカッションするような機会があってもいいなと思いました。他の学生の意見を聞けるような授業はこれくらいなので、秋学期はもっと学生同士が活発に意見を交わせると、学びが深まると思います。

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

春学期を振り返ってみて、行った仕事内容の1つ目は、タイムキーパーである。最初は先生から言われて1回生の発表時に行っていたが、それ以降は自主的に授業全体のタイムキーパーを自主的に行っていた。授業を的確に進め、1回生への時間的負担を減らすために役に立ったと思う。2つ目は、1回生へのアドバイスである。今回授業で行っていたことが興味のある本（社会福祉のみでなく社会問題全般）を読み、その本の概要をまとめ、論題とともに発表するというものであった。そして、行っていたことが1回生の興味あることに関するその他の参考文献を挙げるということである。発表自体に参考文献を取り上げることはなかったが、期末のレポートで担当クラスは参考文献を挙げるように指示されているため、多少は役に立つのではないかと思う。自分のしていたことで、主だったものは以上の2点である。

実際に仕事をしてみて思ったことは、自分で何かを見つけなければすることがないということである。上述した2つのことも自主的に行ったことであり、仕事を与えられたわけではない。そのため、このチューターの仕事は自主性の高いものだと思う。また、「見る」「聞く」「話す」「考える」などの基礎的な部分の習熟が必要であると思う。理由は、授業の中でチューターとしての立ち位置をしっかりと置くためである。チューターは1回生にとって友達などではなく、むしろ先生に近い立場にある。しかし、基礎的部分が劣り、威信を失えば、チューターのみならず先生までもが威信を失う恐れがある。そのため、基礎的部分の習熟が必要であると思う。

感想としては、いろいろな人の意見を聞いて楽しいということが挙げられる。4回生同士だとしても相手の考えがわかってしまうことが多くなる。特に社会福祉学科は1回生から同じ授業を受け、一緒に大学生活を送るためそれが顕著である。そのため、1回生の斬新な意見を聞けるチューターはとても有意義なものだと思う。

<今後のチューターまたは先生への提案>

1回生と同様の課題をチューターも、できれば先生方も取り組んでみるというのも面白いかと思います。

授業準備等でもう少し仕事があってもよいかと思います。（予備知識習得など）

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

春学期は主に各自興味のある福祉関係の新聞記事を持ってきて、クラスのみんなに紹介しました。それをまた、もっと詳しく調べたり自分なりに考えてみたりして、気づいたことや感じたことなどについて一人ひとり発表をしました。一日4人ずつ発表をし、その発表を聞いてグループにわかれて発表内容について話し合いをしました。貧困者の犯罪や医師不足の問題、生活保護の代理申請、障害者や高齢者との共存などなどのみんな本当にいろいろなテーマの新聞記事を持ってきて、とても興味深く聞いていました。みんなの発表の内容がかなり深く、難しいテーマもかなりありましたが、各自しっかりとした意見を持って言う姿を見て驚きました。ディスカッションを通してみんながどう思っているかがわかり、意見交換もできてとても勉強になりました。また、全体クラスで4年間の大学生活を振り返ってというテーマで4回生の発表の時間もありました。一回生に伝えたいことやアドバイスなどのことについてみんなの前に立って発表して、かなり緊張しましたが、私にとっても4年間の大学生活を振り返ってみるいい機会になり、同志社の福祉学科に入って本当によかったと思いました。

自分の一回性の時のことを思い出しながら、授業に楽しく参加させていただきました。秋学期にはもっとみんなと話す機会をつくって、よりいろいろな話ができたらなと思っています。そして、自分ももっと頑張らなければいけないと思いました。半年間チューターとして楽しく授業に参加することができて本当によかったと思います。朝1限で、少し大変でしたが、秋学期にも遅れないように頑張りたいと思います。

<今後のチューターまたは先生への提案>

2009 年度春学期 チューター業務を振り返って

所 属	社会学部	社会福祉	学科
担当科目	ファーストイヤーセミナー		

<春学期を振り返ってのまとめ 仕事内容・気づいたこと・感想 など>

今回火曜日の一限、空閑先生クラスで、一回生とグループディスカッションの参加し、一回生とともに、福祉の課題についてたくさん話しました。

議題は、一回生が関心のある新聞記事から発表をし、それについてみんなで話しました。

学生チューターの立場から、まだ、一回生とは違った角度から問題をとらえて、こんな風にも考えられるよなあとか、法律では理想を掲げているけど実際は違うのだということなんかを話すことができました。それがチューターとしてないってよかったのではないかということです。

また一回生は大学のこと。仕組みなどについてあまり知らないことがあったみたいで、授業に出るたび、「テスト勉強どんなふうにしていましたか?」とか「英語の先生は、ネイティブがいいですか?」など学校生活での気軽な質問をよくされ、私も学生の立場で、話すことができよかったのではないかを思いました。

でも私が考えていた以上に一回生はしっかりしていて、自分の意見をグループの前で発表で来ていたのですし驚いた。また、これから四年間の学びの中で、今の問題意識がどう変化していくのか、福祉への考えがどう変わるかたのしみだなあと思う。

グループの中で新しい発見や、一回生から学ぶことも多くあった。福祉のインスピレーションをした時も私にはない発想があり、一回生からたくさん刺激を受けて、私もこの授業に参加するのが毎週楽しみだった。だんだん慣れてきて一回生と和気あいあいできたことがうれしく思います。

私が、小クラスに入って先生の話の聞くと先生が一回生に学生に伝えたいこと、すごく大事なことを繰り返し言ってくれていたのだなあということを感じました。先生の言葉四回の立場になってひしひしと伝わってきました。一回生も今は分からなくても変化していくんだろかなと考えさせられました。

<今後のチューターまたは先生への提案>

全体クラスの発表のときは、四回のメンバーがみんな「今の時間めっちゃ大切にせなあかん」という話をしました。本当に生の声、赤裸々な声をみんなで話しました。一回背にはこれからの大学生活を考えるすごく貴重な場になったのではないかなと思います。このように、直接小クラスでも話してきていいなあと思います。そのあと、授業の感想をコメントカードに書いたものを見せてもらうと一回生にすごい刺激を与えられる発表になってよかったと実感しました。みんな動きださなきゃと感じたり、自分の生活を振り返るきっかけになったのではないかなあと思います。そして福祉学科にきてほんとうによかったと私たち自身また考えさせられました。